令和７年度

国語

学校推薦型選抜指定校特待生選考

入学試験問題

注意事項

１．試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

２．この問題冊子は、11 ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気づいた場合は、
手を挙げて監督者に知らせなさい。

３．解答は、解答用紙に記入しなさい。

４．解答用紙には解答欄以外に受験番号、氏名の記入欄があるので、監督者の指示に従って
記入しなさい。

５．問題冊子の余白等は適宜利用してもよいが、どのページも切り離してはいけません。

６．試験終了後、問題冊子は回収します。

受験番号（　　）

氏　　名（　　）

国語

設問一　次の文章を読み、後の問に答えなさい。

みなさんは困ったときにどういう情報に①たよるでしょうか。若い人は、まず気軽に聴けるという点で、友人や先輩をたよりにすることが多いのではないでしょうか。なんといっても身近な問題を同世代として共有できるので、もしすでに経験した問題であれば、もっともホットな情報が聴けるわけです。

しかし、これをⅠ鵜呑(うの)みにしてはいけません。1その人の情報が間違っているとは言いませんが、それは限られた体験や知識にもとづく情報である場合があります。とくに人の意見に左右されやすい人は気をつけたほうがいいでしょう。

（　ⅰ　）、就職先を決める時に、流通関係の企業を第一希望にしようとして、友人や先輩に②そうだんし、「流通業界はダメだよ、労働時間が長くて」などと意見されたとします。そこで、「そうなんだ」と思ってほんとうは興味があるのにそこから先の③ちょうさをやめてしまうことがあります。大学の授業でも「〇〇教授は、たいへんだぞ、Ⅱ点もからいし」と言われて、その分野に興味があってもそこでやめてしまう人がいます。（　ⅱ　）、実際に自分でその授業に出て、④こうぎを聴いてみたらそんなことはなかった、というのはよくあります。

人は置かれた立場によってちがう見方をします。就職の話で言えば、ある会社でいやいや働いている人と、やりがいをもって働いている人とでは、その会社や業界についてⅰ尋ねられたとき、答えはちがってくるでしょう。一般的な事実は参考にしても、人それぞれ向き不向きがあれば、価値観もちがいます。大切なのはそうした情報を参考にしながらも、立場のちがう人たちの口コミや、あわせてマスコミなどから客観的な情報を仕入れて、それらをもとにできるだけ自分の目と耳で確認して判断することです。

私の場合も、新聞社に入る前に、実際にそこで働いている人に話を聞くため会社を訪ねていったり、勉強会などで大先輩の話を聞くことがありました。新聞記者といっても所属する部署によっていろいろです。事件や裁判などを扱う社会部の記者と文芸や教育などを担当していた学芸・文化関係の部署では、ジャーナリズムに対する見方もちがっていたのを覚えています。正直なところ⑤とまどうことはありましたが、考えてみれば、そのなかで自分が求めているのと同じような考えを持つ人の意見やアドバイスを尊重して、役立てたような気がします。

つぎに新聞、雑誌や書物の情報の質と、2それらとの接し方を考えてみます。（　ⅲ　）、雑誌ですが、大手出版社や新聞社が出すいわゆる週刊誌は、そのときどきの話題を幅広いテーマで扱っているので、いま世の中でどんなことが起きているかを幅広く知るには役立ちます。（　A　）

新聞とのちがいは、たとえば官公庁に関するニュースを取材する場合、⑥けいさつや役所には記者クラブというものがあり、大手の新聞社やテレビ局の記者は、ここに常時詰めて情報に接しています。（　B　）しかし、雑誌記者はこうした記者クラブに入れないので、独自に情報を集めようとします。その結果、公式の発言や情報という点では新聞社などにはかないませんが、新聞社では絶対に表に出せない「オフレコ」発言も記事にしたり、事情通と称した匿名のコメントなども紹介するといったおもしろみが雑誌にはあります。（　C　）

経済や仕事、働く女性、世の中のビジネス・トレンドなどといった、専門的なテーマを扱う雑誌は、その分野を常にウオッチしているので、ある分野に興味を持った場合は、これらの雑誌を定期的に読んだり、過去の号に遡ってみるといいでしょう。（　D　）さらに⑦くわしく資料を集めたいときは、たとえば、仕事や労働問題など、分野をしぼって図書や雑誌を集めているような専門の図書館、資料館を利用するといいでしょう。（　E　）

Ⅲ雑誌で伝えられる世の中の動きをさらに細分化して掲載しているのが新聞です。新聞には日々の出来事のほかに、話題になっている問題を取り扱った記事が毎日掲載されます。新聞に掲載された情報を全部読み込んでいる人はほとんどいないと思います。読者はⅱ関心のある記事を中心に読んで、あとは世の中の動きを確認したり、知識として仕入れておくべきことがないかと目を通したり、それぞれ判断し、選択しているはずです。

新聞の記事は、およそ全ジャンルにわたって書かれています。大きなニュースは一面に掲載されますが、そのほかのページは、政治、海外の問題・出来事、経済、生活や文化、スポーツ、事件・事故、地方のニュースというように分野別になっています。

たとえば、⑧あくとく商法や詐欺に関した記事では手口を紹介して、読者に向けてだまされないようにと呼びかけ、困ったときのために問い合わせ先なども記しています。Ⅳ働くことをめぐるトラブルについても同じです。ある会社の仕事のさせ方は、明らかに労働基準法違反である、といった事実を知ることができます。そのほかにも、住宅ローンの賢い借り方や奨学金の利用法、身近な税金制度の変化なども、社会のニーズに合わせて掲載されます。

ページ数に限りがあるので、十分な解説があるとは言えませんが、細かく目を通せば、新聞には社会生活を送るうえでの実用情報が実にたくさん掲載されています。朝刊のすべての記事の量は、新書一冊分と言われます。新聞は社会の制度の変化をいち早く伝えます。いまやインターネットによってパソコンや⑨けいたい端末でも新聞記事をかなり見ることができますが、一部の新聞を除いては、細かな記事まですべてを読むことができないことなどを考えると、紙の新聞とはまだ差があります。

新聞はインターネットによる検索のように、ユーザー（読者）のニーズに合わせて情報を拾い出してくるものではありません。常に新聞の側がこれは読者にとって必要だろうと思うものを提供しています。

新聞をつくるにあたっては、まず役所や企業などへ直接のアクセスが可能な立場にある、記者というトレーニングされたプロの取材者が記事を書き、それをデスクと呼ばれる記者がチェックし、（　ⅳ　）校閲で字句の間違いがないかを確認して、紙面の校正・編集をする部署でどの程度の扱いでどう掲載するかを判断します。どの記事をその日のトップにするかなど、もっとも重要な点は、別に会議で決めます。

こうした一連の流れによって、できるだけ質の高い情報を提供しようというシステムができあがっています。（　ⅴ　）日常的に新聞に目を通していれば、知らないうちに基本的な社会生活の知恵はある程度⑩ちくせきしていきます。それは、毎日少しずつランニングをして体力をつけていくのに似て、すぐに効果は見られないものの、気がついたときにはそれなりの力がついていたというようなものです。

社会生活上の問題に直面したとき、新聞紙面にすぐに答えがあるわけではありませんが、新聞から基本的な知識と知恵を獲得していると、Ⅴスポーツの大会にたとえるなら、予選はすでに通過していて、本大会に出場できる権利を得ているようなものです。

（川井龍介著『社会を生きるための教科書』より　設問の都合上、一部省略）

問一　傍線部①～⑩のひらがなを漢字に直しなさい。

問二　（ｉ）～（ｖ）に入る語はどれか。その語として最も適当なものを、次のア～オのうちからそれぞれ一つ選びなさい。

ア　しかし
イ　したがって
ウ　まず
エ　さらに
オ　たとえば

問三　次の文は、もともと本文中にあったものを抜き出したものである。本文中に戻した場合、その場所として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

図書館はこうした雑誌のバックナンバーが置いてあります

ア　（　Ａ　）の場所
イ　（　Ｂ　）の場所
ウ　（　Ｃ　）の場所
エ　（　Ｄ　）の場所
オ　（　Ｅ　）の場所

問四　傍線部[1]その人、[2]それらについて、それぞれ何をさしているか、文中から抜き出して書きなさい。

問五　傍線部[i]尋ねられたとき、[ii]関心のある記事について、後の問（1～2）に答えなさい。

1　傍線部[i]尋ねられたとき　の「れる」「られる」と意味用法が同じものはどれか。適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　彼の言葉は信じられる。
イ　先生が話されたことだ。
ウ　英会話が聞き取れる。
エ　幼い頃が思い出される。
オ　工場で作られた物だ。

2　傍線部[ii]関心のある記事の「の」と意味用法が同じものはどれか。適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　早くから待っていたの。
イ　私の家はすぐ近くです。
ウ　私が店長の田中です。
エ　友だちの焼いたクッキー。
オ　がまんの限界にきた。

問六　傍線部Ⅰ「鵜呑みにしてはいけません」とはどういう意味か。最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　無視してはいけません。
イ　安易に考えてはいけません。
ウ　裏を探ってはいけません。
エ　そのまま信じてはいけません。
オ　たよりにしてはいけません。

問七　傍線部Ⅱ「点もからい」について、同じ比喩技法を用いているものはどれか。最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　鬼のようなやり方。
イ　猫背の姿勢。
ウ　孫に甘い祖母。
エ　手をこまねる。
オ　絵に描いた餅。

問八　傍線部Ⅲ雑誌で伝えられる世の中の動きをさらに細分化して掲載しているのが新聞です。とあるが、そのような新聞に対して読者はどのような読み方をしているか。最も適当なものを次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　いずれも重要な情報としてすみずみまで読んでいる。
イ　それぞれが必要な情報かを判断し、選択して読んでいる。
ウ　世の中の動きを正しく判断するために深く読んでいる。
エ　分野別になっている記事を知識としてすべて読んでいる。
オ　生活に必要な情報を周囲に知らせるために読んでいる。

問九　傍線部Ⅳ働くことをめぐるトラブルの例を文中から八文字以内で抜き出しなさい。

問十　傍線部Ⅴスポーツの大会にたとえるなら、予選はすでに通過していて、本大会に出場できる権利を得ているようなものです。とあるが、それはどういうことか。最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア　基本的な知識や知恵を獲得しているので、問題解決の道筋が立てやすいこと。
イ　答えの探し方を理解しているので、問題解決の方法をたくさん知っていること。
ウ　社会のニーズに応じた記事を読んでいるので、問題解決が素早くできること。
エ　新書一冊分の量の記事を読んでいるので、問題解決の時間が短くてすむこと。
オ　質の高い情報に触れているので、問題解決に不要な情報をすぐに見抜けること。

問十一　筆者は、新聞にはどのような情報が掲載されていると述べているか。次のア～オの中から、二つ選びなさい。

ア　ホットな情報
イ　読者に必要と思う情報
ウ　独自に集めた情報
エ　社会生活での実用情報
オ　検索回数の多い情報

問十二　次のア～オの文で述べられていることが本文の内容と合致しているものには○を、合致していないものには×を、それぞれア～オの解答欄に書きなさい。

ア　同じ会社についての情報でも、そこで働く人の価値観によって情報が異なる。
イ　できるだけ自分と同じ考え方の人の意見だけを聞いて判断する方がよい。
ウ　雑誌には新聞にない魅力があり、情報として最も信用できるものだ。
エ　新聞には直面した問題についての答えがないのでたいへん残念である。
オ　新聞作成には質の高い情報を提供するためのシステムが確立している。

設問二　次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

障害者スポーツの祭典、パラリンピックは、成功のうちに12日間の熱戦を終えた。世界最高の競技性を争う五輪とはひと味違い、人間の潜在能力と可能性の高さを示し、障害者への理解を促進する独自の存在感を遺憾なく示した。

障害者パラリンピック開催の目的の一つは、開催国で障害者差別をなくし、Ⅰ共生社会の実現を進めることである。この意味で、大会組織委員会のトニー・エスタンゲ会長のメッセージはストレートだった。開会式で「今夜、パラリンピック革命が始まる」と宣言、障害者に限界があるとの見方はやめようと訴えた。

大会は、史上最多の１６８カ国・地域と難民選手団が参加。大歓声で盛り上がった直前のパリ五輪の余韻が残る中、会場には多くの観客が詰めかけ、素晴らしい雰囲気となった。日本からは、海外開催の大会では最多の１７５選手が参加した。金メダル14個を含む総メダル数41個を獲得。金は前回東京大会の13個を上回る活躍だった。

悲願の金メダルを獲得した車いすラグビーの池透暢選手は19歳の時に自動車事故に遭い、左脚を切断するなど大けがを負った。バドミントンのシングルス車いすでいずれも2連覇した男子の梶原大暉、女子の里見紗李奈両選手も10代で交通事故に遭い、車いす生活に。失意のどん底からはい上がった努力と家族ら周囲の支える姿を想像すると胸に迫るものがある。

障害があっても、体の使える部位を生かしたパフォーマンスは驚異的でもあり、目を見張った。アーチェリー男子で金メダルのマット・スタッツマン選手（米国）は、生まれつき両腕がないが、座った状態で右足を前方に出して弓を構え、右肩付近の発射装置を使って矢を放った。

選手は、障害者としてではなく一人のアスリートとして見てもらいたいとの意識が強い。今回国際パラリンピック委員会（ＩＰＣ）は、選手は「参加するのではない。戦いに行くのだ」とのキャンペーンを張った。障害者は参加するだけで称賛されることが多いが、競技力を評価してほしい、という訴えだ。

ただ、パラスポーツは競技性の高さだけでは語れない部分が、そのユニークさである。障害に応じて選手一人一人が持てる力を発揮する姿が、見る者を引きつけ、障害への理解を深める。

Ⅱ障害者にとっては、障害は克服したり乗り越えたりするものではなく、「個性」だと言える。周囲から特別視されず、個性の一つとして受け入れられるようなインクルーシブ（包摂的）な社会の実現に向け、パラリンピックはきっかけに過ぎ

ないかもしれない。しかし、それを確かな一歩にしなければならない。

（長崎新聞２０２４年９月１０日　『論説』「共生社会へ確かな一歩に　パラリンピック閉幕」より）

問一　傍線部Ⅰ「共生社会」とはどのようなことか考えて【ノート】の文章を書いた。本文の内容を踏まえて、空欄（ア）（イ）に入る語句をそれぞれ八字以内で本文中から抜き出して書きなさい。

【ノート】　「共生社会」とは、障害者も差別されることなく、障害を一つの「個性」として受け入れ、互いに認め合い共に生きる社会である。パラリンピックの選手は、障害者としてではなく、（ア）として認識され、その競技力を評価されることを強く望んでいる。人間の潜在能力と可能性の高さを示し、（イ）を促進するパラリンピックを、共生社会の実現に向けた確かな一歩にしなければならない。

問二　傍線部Ⅱ障害者にとっては、障害は克服したり乗り越えたりするものではなく、「個性」だと言える。周囲から特別視されず、個性の一つとして受け入れられるようなインクルーシブ（包摂的）な社会の実現に向けとあるが、筆者の主張を踏まえ、インクルーシブ（包摂的）な社会、共生社会の実現に向けて、あなたがどのように取り組んでいこうと考えるか、具体的にわかりやすく三〇〇字以上三五〇字以内で述べなさい。

（文は例のように第一マス目から書き始め、改行したい場合は句点直後のマスにマークとして△を入れること。）

【例】

あいうえおかきくけこ。△さしすせそたちつ
てと、なにぬねの。はひふへほ。△まみ

令和７年度　学校推薦型選抜指定校特待生選考　国語　解答用紙

受験番号（　　）　氏名（　　）

設問一

問一

①	⑥
る	
②	⑦
	しく
③	⑧
④	⑨
⑤	⑩
う	

問二

i	ii	iii	iv	v

問三

問四

1

2

問五

1

2

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

問十二

ア

イ

ウ

エ

オ

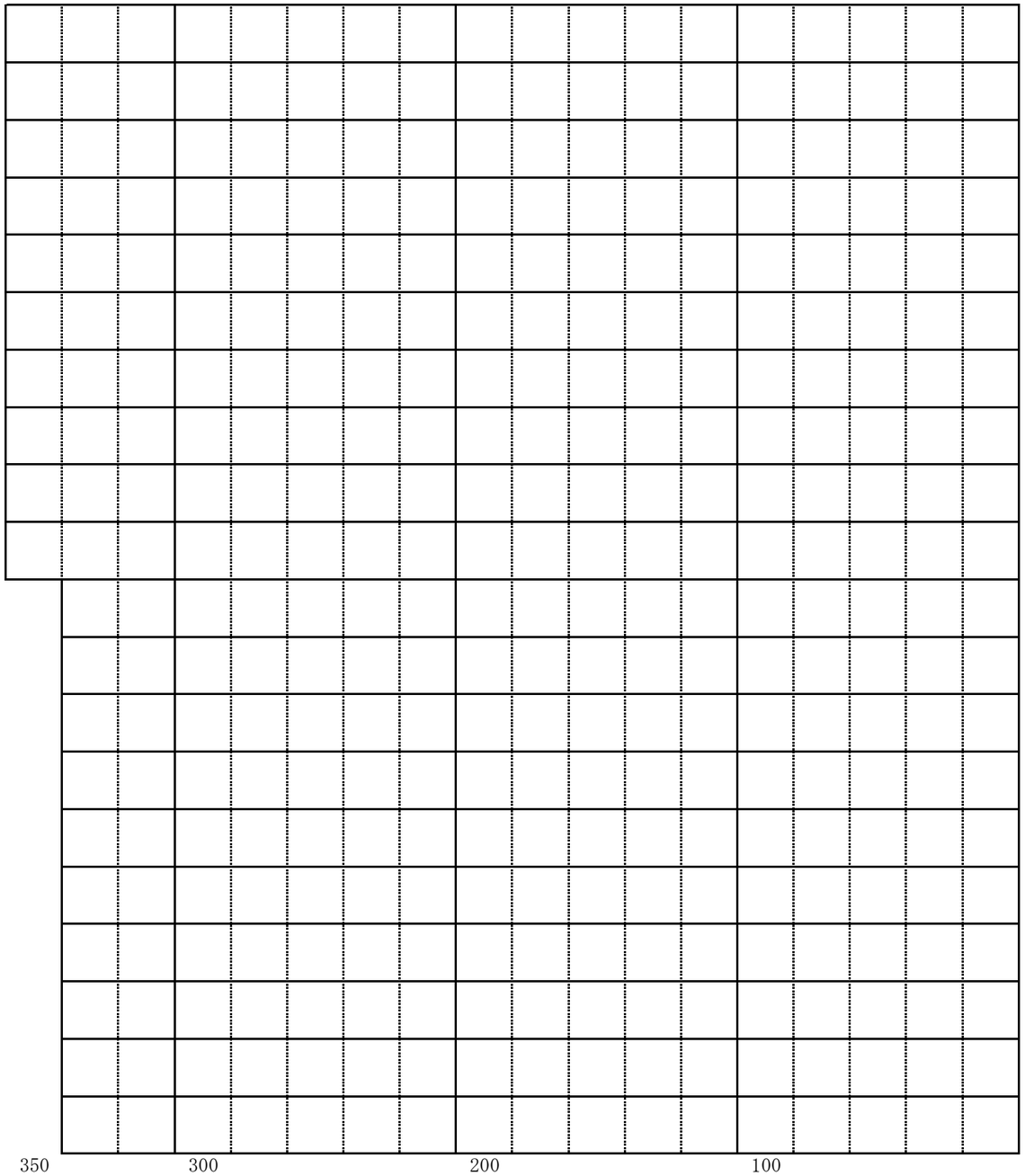
設問二

問一

ア

イ

問二



令和７年度　学校推薦型選抜指定校特待生選考　国語　解答用紙

受験番号（　　）　氏名（　　）

設問一

問一

①	頼る
②	相談
③	調査
④	講義
⑤	戸惑う
⑥	警察
⑦	詳しく
⑧	悪徳
⑨	携帯
⑩	蓄積

問二

i	オ
ii	ア
iii	ウ
iv	エ
v	イ

問三　エ

問四

1

友人や先輩

2

新聞、雑誌や書物の情報

問五

1

オ

2

エ

問六　エ

問七　ウ

問八　イ

問九

労
働
基
準
法
違
反

問十　ア

問十一　イ　エ

問十二

ア　○

イ　×

ウ　×

エ　×

オ　○

設問二

問一

ア

一
人
の
ア
ス
リ
ー
ト

イ

障
害
者
へ
の
理
解

問二

350　300　200　100

令和 7 年度 国語 【学校推薦型選抜指定校特待生選考】 出題意図

【設問一】 評論文：基礎的語彙力・メディアリテラシーの確認

・漢字の書き取り、文脈に沿った接続詞の選択、慣用句の意味理解など、国語の基礎的学力を評価する。

・助詞・助動詞の文法的な識別や、文脈における比喩表現・指示語の指し示す範囲を正しく読み取る力を測定する。

・各種情報メディアの特性や情報選択の重要性について、本文の要旨を的確に把握する読解力を確認する。

【設問二】 新聞論説および小論文：情報要約力・思考力・論理的表現力の確認

・筆者の主張や重要なテーマを正確に読み取り、指定条件に合わせた語句の抜き出しを行う要約力を評価する。

・「インクルーシブ（包摂的）な社会・共生社会の実現」に向けた自身の具体的な取り組みについて論理的かつ説得力をもって記述する文章表現力を確認する。